

11月第4週(11.21~11.25)

NO.217

川崎市からのお知らせです。

今週は「川崎市外国人代表者会議代表者募集」のご案内です。

外国人市民の市政参加を進めることにより、市民が相互に理解しあい、ともに生きる地域社会を作るとを目的に設置されている川崎市外国人代表者会議、代表者の任期満了に伴い、現在代表者を募集中です。任期は2006年4月から2年間、応募条件は川崎市に2005年4月1日以前から引き続き外国人登録している人、2006年4月1日現在で、満18歳以上の人、日本語が理解できる人、ただし2期を継続して代表者になった人、及び他の附属機関等の委員になっている人は応募できません。

代表者委員は26名以内です。選考は書類審査、面接により行われます。

会議では外国人市民に関する市の施策その他外国人市民に関する事項について調査審議し、その結果や意見を市長に提出します。

会議は年間8日程度、日曜日の午後を開催します。その他に各種フィールドワークなどの活動も行われます。会議に出席したときは、非常勤職員としての報酬が支払われます。

募集に関する説明会を11月27日の日曜日、午後1時10分から40分まで国際交流センターで行います。お気軽にご相談ください。

応募希望者は区役所・支所・出張所等で配布の応募申請書に記入のうえ、2006年1月13日までに川崎市市民局人権・男女共同参画室まで郵送。

詳しくは、電話044-200-2359までお問い合わせください。

以上川崎市からのお知らせでした。

11月第5週(11.28~12.2)

NO.218

川崎市からのお知らせです。

今週は「かわさき現代彫刻展2005」開催のお知らせです。

かわさき現代彫刻展は川崎臨海部の新産業拠点から、ものづくりの原点を見つめなおし、世界へ発信する野外彫刻展です。

12月16日の金曜日まで、川崎区南渡田の「テクノハブイノベーション川崎」内の中庭に様々な彫刻作品が展示されています。

出品作家は多摩美術大学教授の石井厚生氏ほか8名の彫刻家と6名の造形作家グループ・RAと

川崎市立臨港中学校美術部の皆さんです。

会場の「テックノバイノベーション川崎」は川崎市が進める「アジア起業家村構想」の拠点でもあり、敷地内の「アウマンの家」では期間中の毎週土曜日、出品作家による「自作を語る会」などのイベントも行われます。「アウマンの家」はかわさき産業ミュージアムの近代遺産として指定されている建物で、旧NKKの創業当時、設備の操業のためドイツから招いた職工長の宿舎を記念資料館として復元したものです。

まだ見ぬ浜川崎は宝の山か、ゴミの山か。

アーティストはなぜここでやろうと思ったのか。

「かわさき現代彫刻展2005」

開催時間は午前10時から午後5時まで、交通はJR川崎駅東口 市営バス川40系統・臨港バス川24系統で約15分「JFE箭」下車。

詳しくは川崎商工会議所 企画広報部 電話044-211-4112までお問合せください。

以上川崎市からのお知らせでした。

12月第2週(12. 5~12. 9)

NO. 219

川崎市からのお知らせです。

「夢見ヶ崎動物公園騒動記」出版のお知らせ。

川崎市夢見ヶ崎動物公園の動物たちや職員の高闘ぶりを取材した「夢見ヶ崎動物公園騒動記」を幸区北加瀬で編集プロダクションを経営する出竹生久さんが出版しました。出版のきっかけは、同園で飼育されているペンギンの折れたくちばしを、人間の歯科技術を応用して見事に再生したというニュース。

普段何気なく見ていた小さな動物園にも、きっと知られざるエピソードがまだまだたくさんあるのではと、同公園に取材を申し込み約2年かけて、園長、獣医師、飼育係へのインタビューをベースに動物たちの生態や職員の苦労話などをまとめました。シカの赤ちゃんやカモなどの鳥のひなをガラスから守る前園長の奮戦記、ヘラジカの出産に立ち会った職員が感染したオウム病事件、動物盗難事件、ヘビが獣舎の近くにいることを南米産フサオマキザルが職員にアイコンタクトで知らせる、といったひとと動物の心温まる交流など、夢見ヶ崎動物公園ならではの出来事が全15章の構成でまとめられています。

第9章では「動物も火は怖いのか?」「エサの時間は決まっているのか?」といった動物や同公園に関する素朴な質問に職員が答えています。巻末には飼育されている動物の一覧も掲載され、ガイドブック代わりにご利用できます。価格は1,575円、全国書店及び夢見ヶ崎動物公園売店でも販売しています。

以上川崎市からのお知らせでした。